

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第3回)**

福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2025年2月26日

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（１）全体概要：「“ふるさと愛”プロジェクト 福島の過去と未来に出会う」

“ふるさと愛”プロジェクト 福島の過去と未来に出会う	
企画趣旨 ※第1回意見交換会 の意見から企画を調整	全国から参加する若者が、福島の人々との触れ合いを通して、福島への関心を深め、継続的に福島との繋がりを感じられる活動の場を提供し、福島を愛するメンバーが集う“ふるさと愛”プロジェクトの継続と定着。 ・運営委員会発足により、令和5年度参加者との連携とさらなる“ふるさと愛”の拡大を図る ・参加者が“ふるさと愛”プロジェクトを通して、継続的に福島へ関心を持ってもらうための環境づくり ・12市町村の観光・移住・起業へ繋がるプログラムを構成し、多面的に福島との“縁”を生み出す
開催日程	・ 2025年2月17日（月）～2月19日（水）
参加者	・ 運営委員会 学生7名（+アドバイザー2名） ・ 参加者 学生20名
活動拠点	・ Jヴィレッジ 2月17日：“福島な人”交流会/2月19日：“ふるさと愛”プロジェクト体験発表会（ポスターセッション） ・ 小高・浪江・飯館エリア/双葉・大熊エリア/富岡・楡葉・川内・広野エリア 2月18日フィールドワーク
実施内容	<2月17日（月）> 東日本大震災・原子力災害伝承館見学/震災遺構浪江町立請戸小学校見学/“福島な人”交流会（Jヴィレッジ） <2月18日（火）> フィールドワーク（3コース：小高・浪江・飯館コース 4箇所/双葉・大熊コース 3箇所/富岡・楡葉・川内・広野コース 4箇所） <2月19日（水）> “ふるさと愛”プロジェクト体験発表会（ポスターセッション）
運営委員会 オンライン会議	・ 第1回運営委員会：2024年 8月29日（土）17時～ ・ チームミーティング：2024年 9月17日（火）18時～ ・9月18日（水）19:30～ ・ 第2回運営委員会：2024年 8月20日（金）19時～ ・ 第3回運営委員会：2024年10月25日（金）19時～ ・ 第4回運営委員会：2024年11月29日（金）19時～ ・ 第5回運営委員会：2024年12月20日（金）18時～ ・ 第6回運営委員会：2025年 1月17日（金）18時～

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（２）運営委員会構成

昨年までの参加者から7名の学生、副代表団体から2名のアドバイザーを迎えたメンバーで編成。

＜令和6年度 運営委員会メンバー＞		R5運営委員会	R5参加者
1	東京大学 学生	●	●
2	東京大学 学生	●	●
3	岡山大学 学生		●
4	長崎大学 学生	●	
5	福島大学 学生		●
6	福島大学 学生		●
7	福島工業高等専門学校 学生	●	●

＜令和6年度 運営委員会アドバイザー＞		氏名
1	ふくしま連携復興センター 代表理事	天野 和彦
2	福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授	藤室 玲治

（３）運営委員会開催内容

全6回の運営委員会を開催し、企画内容について議論を実施

実施回	開催日	議題・内容
第1回 運営委員会	8月29日（木） 17:00～18:40	■参加者自己紹介/昨年の振り返り/今年度取組「実践の場」「招待状WS」説明 ■「実践の場」「招待状WS」についてブレインストーミングと意見交換 ○プログラムで体験したいこと、体験させたいこと ○アウトプットは何を誰に届けたいか ■第2回に向けたチーム別ミーティングの設定（全体構成・アウトプット）
チームA ミーティング	9月18日（水） 19:30～20:10	■「実践の場」の構成イメージ ○第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論
チームB ミーティング	9月17日（火） 18:00～19:30	■「実践の場」の構成イメージ ○第2回で話し合う全体構成、アウトプットについて議論

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

(3) 運営委員会開催内容

実施回	開催日	議題・内容
第2回 運営委員会	9月20日（金） 19:00～21:00	<p>■内チームで議論された内容を発表し、全体で議論（全体構成・アウトプット）</p> <p>○プログラム内容・日程別スケジュール・訪問場所・アウトプット・参加対象者について議論 （第3回への課題）実践の場：参加対象者設定・体験させたい場所や人・イベント名称</p> <p>招待状WS：構成イメージ・掲載したい場所・写真・メッセージ・サブタイトル</p>
第3回 運営委員会	10月25日（金） 19:00～21:00	<p>■訪問地や参加してもらいたい方のイメージを共有し、意見交換と議論を行う</p> <p>○どういった参加者に集まってもらいたいのか、どの様な福島を見せるかについて議論</p> <p>○訪問先の候補を選定し、正式なイベントタイトルを運営委員会案から決定</p> <p>○招待状サブタイトルを運営委員会案から決定 （第4回への課題）招待状WS：掲載内容追加案</p>
第4回 運営委員会	11月29日（金） 19:00～21:00	<p>■訪問地候補についての意見交換、SNSの活用方法、最終日の発表手法に対する議論を行う</p> <p>○絞り込んだ訪問候補地について意見交換</p> <p>○Instagramの活用を想定した運用方法について議論</p> <p>○招待状の構成内容について意見交換</p>
第5回 運営委員会	12月20日（金） 18:00～19:50	<p>■訪問地との調整状況について共有し、最終日ポスターセッションに対する議論を行う</p> <p>○訪問順とコース設定について意見交換</p> <p>○Instagramの運用方法について意見交換</p> <p>○招待状の構成内容について校了内容の共有</p>
第6回 運営委員会	2025年1月17日（金） 18:00～18:50	<p>■第5回からの調整状況・参加申し込み状況の共有と、訪問地・招待状構成の最終確認。</p> <p>○Instagram運用方法・ポスターセッション実施方法の共有</p> <p>○招待状の最終構成についての共有・確認</p>

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（4）参加者募集方法

＜運営委員会による募集活動＞

運営委員会メンバーが、在籍する大学や学友に働きかけてチラシ配布や告知を実施。

- ・東京大学：駒場キャンパス内チラシ（ビラ）設置
- ・岡山大学：チラシの学内掲示
- ・福島工業高等専門学校：学生向けメール配信（チラシデータ添付配信）

＜チラシ＞

＜副代表団体・事務局による声かけ＞

福島県・福島大学による告知、事務局による学生への声かけを実施。

- ・福島県：これまで関係があった大学等への声かけ
- ・福島大学：学生向けメール配信・チラシ設置
- ・事務局：宮城県、岩手県で取組に参加した学生への声かけ
（東北大学・宮城学院大学・岩手大学の学生）

＜参加者：20名＞

- ・岡山大学：3名
- ・東京農工大学：2名
- ・東京農工大学院：1名
- ・立命館大学：1名
- ・早稲田大学：1名
- ・淑徳大学1名
- ・福島大学：5名
- ・東北大学：3名
- ・宮城学院女子大学：2名
- ・岩手大学：1名



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（5）企画の実施報告

■ 1日目/2月17日（月）

10:00 郡山駅（バス）

——移動：120分——

12:00 東日本大震災・原子力災害伝承館見学（100分）

・展示見学 60分

・横山和佳奈さん語り部 40分

——移動：10分——

14:00 震災遺構 浪江町立請戸小学校見学（60分）

——移動：60分——

16:00 Jヴィレッジ チェックイン

17:00 「福島な人」ワールドカフェ交流会 開始

＜参加いただいた皆さま＞

①大熊未来塾 木村さん

②BAUM HOUSE YONOMORI 遠藤さん

③YONOMORI DENIM 小林さん

④富岡町 秋元菜々美さん

⑤naturadistill 川内村蒸留所 高橋さん

⑥図図倉庫 矢野さん（資料案内）

19:00 「福島な人」ワールドカフェ交流会 終了

19:00 夕食

20:30 明日の案内

21:00 終了

東日本大震災・原子力災害伝承館



震災遺構 浪江町立請戸小学校



「福島な人」ワールドカフェ交流会



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

(5) 企画の実施報告

■ 2日目/2月18日（火）

小高・浪江・飯舘

08:30 Jヴィレッジ出発

コース：A

——移動：90分——

10:00 菅野宗夫さんフィールドワーク（1時間30分）

——移動：10分——

11:40 図図倉庫視察（60分）

——移動：50分——

13:30 道の駅なみえ 昼食（60分）

——移動：10分——

14:45 株式会社ウッドコア 視察（1時間）

——移動：15分——

16:00 OWB株式会社視察・講演（1時間）

17:00 →ホテル移動（南相馬）

宿泊：ダイワリンクホテル南相馬

菅野宗夫さんフィールドワーク



図図倉庫視察



株式会社ウッドコア 視察



OWB株式会社視察・講演



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（5）企画の実施報告

■ 2日目/2月18日（火）

双葉・大熊

08:30 Jヴィレッジ出発

コース：B

——移動：30分——

09:00 大熊未来塾 木村さん フィールドワーク（3時間）

——移動：20分——

12:20 おおくまーと 昼食（50分）

——移動：5分——

13:30 学び舎ゆめの森 視察（2時間15分）

——移動：15分——

16:00 フタバスーパーゼロミル視察（70分）

17:10 →ホテル移動（双葉）
宿泊：ビジネスホテルARM双葉

大熊未来塾 木村紀夫さん フィールドワーク



学び舎ゆめの森 視察



フタバスーパーゼロミル視察



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（5）企画の実施報告

■ 2日目/2月18日（火）

富岡・檜葉・川内・広野

09:30 Jヴィレッジ出発

コース：C

——移動：30分——

10:00 語り部 秋元菜々美さんフィールドワーク（1時間30分）

——移動：40分——

12:20 naturadistill 川内蒸留所見学（1時間）

——移動：10分——

13:30 川内村 天山そば 昼食（1時間）

——移動：30分——

15:00 BAUM HOUSE YONOMORI視察（60分）

——移動：10分——

16:10 YONOMORI DENIM視察（40～60分）

17:10 →ホテル移動（富岡）

宿泊：富岡ホテル

秋元菜々美さんフィールドワーク



naturadistill 川内蒸留所視察



BAUM HOUSE YONOMORI視察



YONOMORI DENIM視察



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

(6) “ふるさと愛”プロジェクト体験発表会

■ 3日目/2月19日（水）

- 最終日は、Jヴィレッジにおいて、“ふるさと愛”プロジェクト体験発表会を実施。
2日目の訪問を通して感じた「これまでの福島」と「これからの福島」に対する想いを
パネル（A1サイズ2枚）を各コースごとに制作。
- 各チームから内容を発表後、復興庁福島復興局、福島県、運営委員会アドバイザーの天野様
（ふくしま連携復興センター代表理事） 藤室様（福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授）から
発表内容に対する講評をいただいた。



● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

（7）参加者・協力事業者一覧

＜参加者一覧＞

	所属	学年	性別	年齢		所属	学年	性別	年齢
1	岡山大学 教育学部	修士2年	女性	27	11	福島大学 人間発達文化学類	3年	男性	21
2	岡山大学 法学部	3年	女性	20	12	福島大学 人間発達文化学類	3年	男性	21
3	岡山大学 法学部	1年	男性	19	13	福島大学 人間発達文化学類	2年	男性	20
4	東京農工大学 農学部	4年	女性	21	14	福島大学 人間発達文化学類	2年	男性	20
5	東京農工大学 農学部	1年	女性	20	15	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部	2年	女性	20
6	東京農工大学大学院 農学部	修士1年	男性	23	16	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部	2年	女性	20
7	立命館大学 理工学部	3年	男性	21	17	東北大学 工学部	3年	男性	21
8	早稲田大学 政治経済学部	2年	男性	19	18	東北大学 工学部	3年	男性	21
9	淑徳大学 地域創生学部	2年	男性	20	19	東北大学 工学部	3年	男性	21
10	福島大学 人間発達文化学類	4年	女性	22	20	岩手大学 農学部	1年	男性	18

＜協力事業者一覧＞

地域	団体・個人名
飯館村	曾野宗夫 様
飯館村	西野倉庫（合同会社MARBLING） 矢野孝 様
渡江町	株式会社ウツロフ 有我克博 様
小高町	OWB株式会社 只野福太郎 様
大館町	大館未来塾 木村紀夫 様
大館町	大館町立 学び舎ゆめの森 白井功 様
双葉町	フタバスーパーセロミル（双葉産米株式会社） 土屋輝幸 様
富岡町	秋元菜々 様
川内村	nakuradie川内醸造所（株式会社Kokage） 高橋海斗 様
富岡町	BAUM HOUSE YONOMORI（株式会社マルモ・商店） 遠藤一善 様
富岡町	YONOMORI DENIM（株式会社YONOMORI DENIM） 小林真 様

● 今年度の企画（実践の場）の実施報告

<2日目 コース別参加者一覧>

Aコース参加者

	所属	学年	性別	年齢
運営委員会	岡山大学 法学部	2年	男性	22
運営委員会	福島工業高等専門学校 ビジネスコミュニケーション学	2年	女性	22
1	岡山大学 教育学部	修士2年	女性	27
2	岡山大学 法学部	3年	女性	20
3	東京農工大学大学院 農学部	修士1年	男性	23
4	立命館大学 理工学部	3年	男性	21
5	早稲田大学 政治経済学部	2年	男性	19
6	京都大学 地域創生学部	2年	男性	20
7	東北大学 工学部	3年	男性	21
8	東北大学 工学部	3年	男性	21

Cコース参加者

	所属	学年	性別	年齢
アドバイザー	ふくしま連携復興センター 代表理事	天野 和彦		
運営委員会	福島大学 人文学社会学	3年	女性	22
運営委員会	福島大学 人文学社会学	4年	女性	22
1	東京農工大学 農学部	4年	女性	21
2	福島大学 人間発達文化学類	3年	男性	21
3	福島大学 人間発達文化学類	2年	男性	20
4	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部	2年	女性	20
5	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部	2年	女性	20
6	東北大学 工学部	3年	男性	21
7	岩手大学 農学部	1年	男性	18

Bコース参加者

	所属	学年	性別	年齢
アドバイザー	福島大学 地域未来デザインセンター 特任准教授	藤原 玲治		
運営委員会	東京大学 教育学部	4年	男性	22
運営委員会	東京大学 工学部	4年	男性	21
運営委員会	長崎大学 医学部	3年	女性	23
1	岡山大学 法学部	1年	男性	19
2	東京農工大学 農学部	1年	女性	20
3	福島大学 人間発達文化学類	4年	女性	22
4	福島大学 人間発達文化学類	3年	男性	21
5	福島大学 人間発達文化学類	2年	男性	20

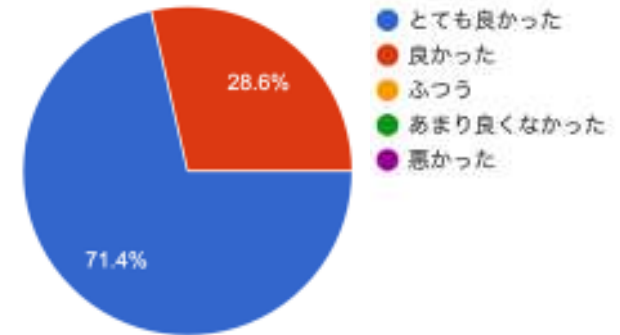
● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞ 回答21件

Q：今回の“ふるさと愛”プロジェクト「全体」の満足度を教えてください。

＜意見抜粋＞

- ・普段会うことの出来ない方、話すことの出来ない方、**見ることの出来ない景色に出会うことが出来、学びを深められた**と共に、会うことの出来ない仲間と出会い中を深められた。
 - ・1日目は**福島歴史、全体の状況を勉強**して、2日目は地元の人のお話を聞いて、**本当の現状を把握しました。**
 - ・「ふるさと」は自分の中で何個あってもいい！生まれ故郷、精神的な拠り所、会いたい人がいる場所！そんな事に気が付かせてくれたプロジェクトだった！
 - ・東北だけでなく、**全国から集まった学生で福島のこれまでとこれからについて**それぞれの訪問した地域について**セッションする**ということでも**貴重な経験**をできたからです。
 - ・**改善点もあり、これから育っていくイベント**だと感じる。学びのある面白いイベントだったが、**ここに充てられた投資をもっと生かしていくために、地域の事をより深く知り、よりリアルな実態に触れたい**と感じる。
 - ・福島に来るまで、今の福島がどういった課題に直面しているのか、分からなかったし、**今の福島の過去や現状、これからを実際に現地に行ってみて分かった**から。また、様々な大学の友達と交流できたから。
 - ・**テンポよくさまざまな人や企業の取り組みを見学することができた2日目**が特に良かったです
 - ・**初めての福島訪問**だったが、**震災の被害や復興の実情を深く知ることができる大変良い機会**であった。
 - ・集まる人の**事前情報がなすぎた**ような気がします。**自分たちのアイスブレイク**の場があれば**最初のワールドカフェ**がもっと**活発になった**のではないかと思います。加えて、実行委員の位置づけが最後までよく分からなかったです。
- 個人的には、**2日目の夜も皆同じ場所に泊まって、それぞれあーだこーだ言える時間があっても良かった**のかなと思います。
- 全体としてはめっちゃめっちゃおもしろかったです。運営ありがとうございました。



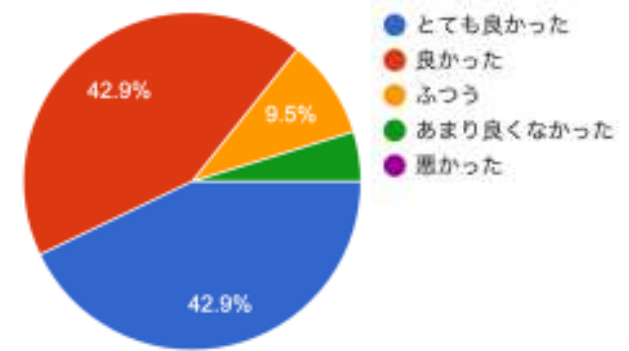
● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：「福島な人」ワールドカフェ交流会の満足度を教えてください。

＜意見抜粋＞

- ・事前情報として交流出来てよかった。**時間が短く、スムーズに出来なかった**
- ・対話の形式は良かったです。もし**もっと自由な雰囲気**で、たとえば、**学生さんは自由に動**けて、**15分に限らず、知りたい企業さんにもっと時間をかけたら、どうか**と思います。
- ・**福島の復興に向けて努力を続けている人たちの話はとても興味深く面白かったから。**
- ・Cチームの事業者さんが多かったので、やはり人の言葉で直接聞くと興味が湧くなあと思った。
事業者さんの都合等もあると思うが、均等に説明して下さる方がいたらもっと良いかなあと思いました！
- ・**15分間という時間は、質疑応答の時間も踏まえるとやや短いように感じた。**
- ・**比較的短い時間で福島に住む人の「声」を聞くことができたため。**
- ・個人的には**15分は少し短く感じてしまいました**。また、交流してくれる人のアイドリングが3人発生していたので、**少人数にして隙間なく話を聞いてもいいのかなあ**と思った。**（スピーカーの方が疲れてしまうかもしれませんが、）**
- ・分野の異なる6名の取り組みを学ぶことができ、フィールドワークのコース決める参考になり、かつ行くことのできない人の意見を含めて、**多様な話を聞く良い機会だったから。**
- ・**貴重な話を聞けたから、もう少し人数を減らしてでも良いのでもっと長い時間お話を聞ければとも少し思いました。**
- ・**短い時間であったため、紹介程度でしかなかったが、多くの職種の人が福島に関わっていることがわかったから。**
- ・私はもともとBに決めていたのですが、知らない世界を見ることができてとても楽しかったです。**もう少しだけ話の枠組みのようなものが設定されていると両者ともに喋りやすかったのかなあ**と感じていました。
- ・**自分の興味分野に限らず色々な方の話を伺えたから。**



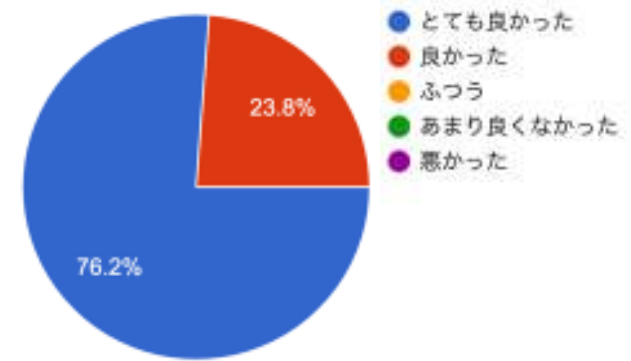
● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：2日目に実施したフィールドワークの満足度を教えてください。

＜意見抜粋＞

- ・体験学習が魅力的だった。**復興のリアルを知れ、これから発展していくために私たちに何ができるのか学べた**
- ・福島のことまでについてのお話を聞けると共に、**今を自分の目で見る事が出来、今後についてもお話をお聞きできた**から。
- ・**行った場所が良かった**だけでなく、そこで**聞ける話や体験できることの質が高かった**ため。
- ・正直、希望していた行き先ではなかったが、結果的にはAコースで良かった！と思ったから。
何度か行ったことある場所もあったが、前回とはまた違ったところを見れたり、違った話を聞いて良かった！
- ・福島な人でお話を伺った方々に会い、現地に訪問したことでさらに関心が湧き、**福島の復興について身近に学ぶことができました**
- ・フィールドワークの前提として事前学習が大事であると感じる。そこで**前日の交流会で得た知識が生きた**。
- ・フィールドワークに行ったことで、**福島での課題について深刻に考えるようになった**し、1日目の話で分からなかったことが分かったから。
- ・興味のあるプロジェクトを行う方々とさらに交流し、**事業やその理念について見聞きすることができた**。
- ・**課題解決に前向きな市民の声を聞くことが出来た**から。自分も見習いたいと思った。
- ・飯舘・浪江・小高の4つの事業者を巡り、それぞれの**復興への思いを感じることができた**から。それぞれ共通しているのは、いかに地域コミュニティを再生するかということだった。取り組む分野・対象は違えど、その**共通の思いが復興の原動力**になっているのだと肌で感じる事ができた。
- ・大熊双葉エリアに参加。**色の違いと温度感が深く刺さった**。
- ・フィールドワークでは、自分の興味のあるところを選択することができ、**自分の学びたいものや福島を知ることができた**から。
- ・いつどこに汚染地域に認定、解除されたなど**あらかじめ知らずに参加したこともあり、学びが浅くなってしまった**ため。
- ・木村紀夫さんからゆめの森のお話の流れなど、効果的に勉強になるコースでとても満足しました。



● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：フィールドワークで会えて良かった人や、行って良かった場所と理由を教えてください。

＜意見抜粋＞

- ・菅野宗夫さん、**実際の生活者の話を聞けたから。震災・被災に関してよりも、生活や未来を聞けたから。**
- ・YONOMORI BAUM 遠藤さん、秋元さん、街を興そうと様々な取り組みをしたり、**かつての街について詳しく知っていたりする方から具体的な経験談を聞けた**ため。また、街を再び活性化させるためにどのようなことが課題となるのかについても詳しく知れたため。
- ・凶凶倉庫は良かったと思います。**小さな村にアーティストは自分の創意で人と人のつながる居場所を作っておもしろい**ですね。
また、絵とかを使って**難しい原子力など科学の概念を説明してくれてわかりやすい**です。
- ・凶凶倉庫の矢野さん、小高の只野さん、**2人とも、自分の今後のロールモデルにしたい**なあ！と思える人生を送っている方々だった！
- ・木村さんのフィールドワークはとても良かった。現地で震災当時の状況について詳細に教えていただいただけでなく、**自分たちに考えさせる問いをよく投げかけてくれた**ため、深刻に考えることができたから。また、学び舎ゆめの森も良かった。**教育について、初めての試みが多くみられ、自分もこのような教育を受けてみたい**と思った。フタバスーパーゼロミルも良かった。**福島の外から復興のために来る人と、中から復興を目指す人がお互いに協力し合っているように感じ**、職場の環境もとても良さそうに思った。
- ・ゆめの森について、建物ばかりに目を向いていたが、**そのソフト面の思想に触れることができ、とても良かった**。
- ・矢野さんとお話ししていた際に、「被災された方々の支援され疲れ」という話が**とても印象的でした**。被災されている方に「支援してあげている」という心で向かう人がいることを知ったと同時に自分自身がもし行動する時、そのようなマインドになっていないか今一度気をつけないといけないと思うきっかけになりました。
- ・菅野さんのもとでは、「**ふくしま再生の会**」として行っている**放射線量の測定やハイテク農業、生活体験等について話**を伺った。特に**飯館村と農業に対する熱い想いを聞き、感銘を受けた**。復興とは、持続可能なコミュニティを作ることとの菅野さんの言葉を胸に刻んでいる。この言葉がフィールドワーク全体で最も心に残っているため。
- ・木村さん 東京に住む私にとって、福島・被災地・原子力発電は疎遠で、**自分の無力感を伝えようとする姿は大学生に使命感を与えていると感じた**から。
- ・スーパーゼロミル、会社の利益より地元の復興を優先して成功された姿はこれからの日本にとって見本になるだけでなく、地方を見捨てない大切さを学べたから。
- ・ヨノモリデニムの小林さん、若い世代の方が地元に戻ってきて頑張っているお話をお聞きできたから。

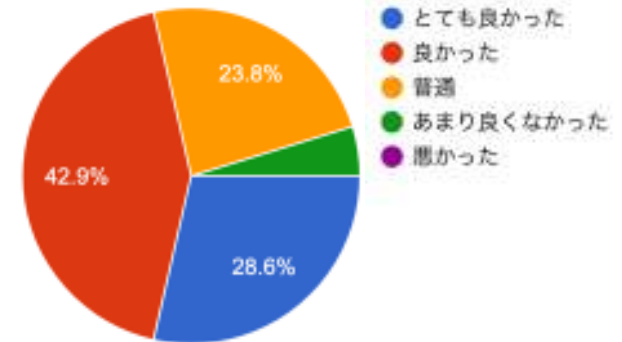
● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：3日目に実施したポスターセッションの満足度を教えて下さい。

＜意見抜粋＞

- ・**班の仲間と共に学びを共有**し、班でふたつのポスターにまとめられたから。また、行けなかった2つのコースの話も聞けたから。
- ・**コースごとに発表に色があり良かった**。他大学の方から発表の仕方を学べた
- ・**チーム内で自分の考えをセッションさせていた**のが良かったです。
- ・**言いたいこと、伝えたいことはもっとたくさんあったが時間が足りず**、上手くまとまっていたかどうか…
ポスター制作は、グループの**みんなで考えを整理できたので理解を深めるのに役立った！発表する場があるのはとても良かった！**
- ・短い時間で1日のことをまとめるのは大変でしたが、**回らなかった地域の現状を学ぶことができ、いい機会であった**と思います。
- ・自分たちで悩み考えてポスターを制作する過程で、**お会いした人たちの取り組み、生活、思いを汲み取り、自分事として消化**することができた。
- ・印刷が使えたのがとてもやりやすく良かったです。一つ、お願いがあり、パソコン充電に苦しむ人が一定数いたように感じます。
充電のためのドラムロールなどがテーブルに一つあるといいなと思いました。
- ・**時間配分が難しく、準備を入念にすべきだった**と思った。しかし、他班のツアー内容など知ることができてよかった。
- ・**各グループのフィールドワークでの学びや福島への思いが伝わってくる非常に有意義なもの**だったから。
ポスターとして形に残すことで、**今回参加していない人へも福島の魅力を伝えていける**。ただ、制作に時間がかかり、**最後のポストイットを行えなかったのが反省点**。
- ・行ってきた場所の紹介が目的なのか、出会った人なのか、自分たちの感情なのか、**何を目的としてつくっているのかよく分からなかった**。
2日目夜に各チームで交流してること前提な感じで、制作時間は**伝えたいことの共有よりも、時間までに完成させなきゃって意識**の方が強くなっていたように思う。ポスターは行ってきて知った事実ベースでいいかもしれないけれど、**発表はポスターの読み上げじゃなくて自分たちの心の揺れ動きをもっと表現しても良かった**のかなと思う。
- ・2日目にあまり準備することができなかったのも、あまりクオリティの高いものを作れなかった
2日目で何かできる時間とか流れとかをグループの中でちゃんと共有できたらよかった



<参加者アンケート>

Q：ふるさと愛”プロジェクトに参加して、福島に対する思いへの変化を教えてください。

<意見抜粋>

- ・福島の実際の復興状況や街の様子を知れてよかった。思ったよりも、街の再建は進んでいなかったが、人は明るく希望に満ちていた
- ・今まで「福島はこんな感じらしい」といった印象しかなかったのが、「福島にはこんな課題があるのか」「福島にはこんなに素晴らしいものがあるのか」という発見が多くあり、また来たいと思った。震災で辛い思いをしたのは岩手だけではない、ということを強く感じた。
- ・来た前は福島は事故があったということだけ知っています。実際に現地訪問して、地元の方は自分ができる限る力で頑張っていることに感動しました。
- ・さらに、福島で活動していきたい！生活していきたい！と思えた！
- ・私は宮城の震災後の状況しか知りませんでしたが、今回のプロジェクトを通して福島の今と住む人々が目指している福島について学ぶことができ、福島のような復興が原発によって遅れている地域ももっとたくさんの人に目で見てもらうことが大切であると感じました。
- ・浜通りの復興が岩手・宮城と比較してやはり遅れていることを体感した。その中で、支援を受けつつも少しずつ自立し、コミュニティを再生成する姿勢は、ほかの地域にとってもロールモデルとなると思う。
- ・最初は「どんなところだろう？」といった気持ちで来たが、福島の復興のために活動する人や、原発事故を風化させないために語り続ける人、福島をとても愛している人たちと出会って、とても素晴らしい県で、とても強い県でもあり、とても愛されているいいところだなと思った。
- ・最後のお話にもあったように、今福島は「光を当ててもらおう」状態から「自分たちが光り輝く」状態になっていたのだと気が付きました。光り輝く方々を心に常に置いておきながら、自分も今頑張ったことの延長で何か力になればと考えるようになりました
- ・福島に来る前は震災の被害や復興について全く知ることがなかった。インターネットのソースはどれほど信じていいのか判断しにくく、私自身情報に距離をとっていたのだと思う。今回のプロジェクトで、震災伝承館の訪問や福島出身の先生、学生さん、訪問先の方々との対談から大震災の悲惨さと彼らの考え方について触れることができた。たった一度の地震、津波、原発人災で多くの地元の人、建物、文化がなくなってしまう大変辛い出来事だと改めて感じた。一方で、他の人に同じ経験をさせたくない、未来に向けて福島をまちづくりの見本にしていきたい、という熱い思いを感じた。私ができることは、この経験を他の人に伝え、震災が起きた時の避難方法や復興の大切さ、実情を現場で感じて学ぶことの重要性を広めていきたい。昨日、日本はまた原子力発電を進めていくことが決まったというニュースを知った。政府の予算決定は国民の意見が反映されるため、私たちが過去の原発や震災をちゃんと知り、都心部の人々はそれまでどのようにして自身の暮らしのもととなる電力を供給されていたのか知る必要があると思う。

＜参加者アンケート＞

Q：ふるさと愛”プロジェクトに参加して、福島に対する思いへの変化を教えてください。（2）

＜意見抜粋＞

- ・震災、原発事故に対する知識のインプットをしばらくしていなかったので、改めて自分がどういう場所で活動しようとしているのかの確認ができました。8町村知らないところまだまだあるのでもっと知りたいと同時に、自分がここで何をしたいのか考えたいなと思った。
- ・福島というのは原発や震災による悲しい地域だと思っていましたが、人々の心構えから街づくり、教育など、実は今日本の中でも大きく進んでいる地であることがわかり、日本で大きく誇ることのできる街だと思いました！
- ・福島についての愛着が増えた
- ・現地に生きる人が福島のことを課題意識をもってしっかり考えて生きられる姿に強く思うところがあった。
- ・テレビ番組で「知っていたつもり」の内容が日本国民全員がそれぞれの意見を持つべきだと考えた。国の方針と現地の意見の食い違いは、被災地に関わらず、起こりうることなのであらゆる意見を聞き入れる意識を養っていきたい。
- ・「福島から学ぶ」ことは「震災やそれに伴う出来事をもう起こさないようにすること」だと考えていましたが、そうではなく「起きてしまったことをもとにどうしたらより良い社会になるかをみんなで考えていくこと」だと考えを改めた。今後も自分としてできることを周りのできる範囲と重ねながら協働してより良い福島やさらには日本の未来を創っていきたい。
- ・何年経っても気持ちが増すように思います。福島の過去について触れるとともに、自分の考え方やしたいことについても思いを巡らせることができました。

● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：福島魅力を発信する方法について、アイデアがあればお聞かせ下さい。

＜意見抜粋＞

- ・**ポスターセッションをYouTubeに載せる**
- ・**岩手大・東北大・福島大の3大学での交流**。福島大の震災関係のサークルとの交流。
- ・現地の人たちの様子、努力、景色などをもっとメディア発信。
- ・やっぱり**実際に来て、見て、知って、感じてもらうこと**が1番だと思った！
- ・震災や復興というワードを使わずに、**素直な魅力を伝えていくのが良いと思う**。
それらの関連ワードを入れると、どうしても「かわいそう」「支援しなきゃ」「大変そうだ」といった重い印象のもと地域を見てしまい、
良いイメージを残す足枷となってしまうのではと考える。**浜通りには知られざる面白い、好奇心を煽るような素敵なイベントが沢山ある**
ことに今回のツアーを通じて気づいた。
これらのイベントの良さを素直に伝えるために、あえて震災や復興というワードを外すことをやってみても良いのではと感じた。
- ・自分たちが様々な地域から福島に来たように、**福島から全国に行って福島の魅力について伝えてもらえると、全国から福島に行きたい人が現れる**のではと思った。
- ・改めて、復興に奮闘する面白い人がたくさんいると思いました。そのような人の取り組みをもっとしれる機会があると嬉しいです。
(インスタや投稿など)
- ・**各通りを周遊する感じの学生用のちょっと安めの現地ツアー。SNSでリアリティのある、被災地の人々の暮らしを発信**する。
- ・YouTuberとか、普段全然**旅行しない系のYouTuberやインフルエンサー**に福島を旅行してもらう案件を出すと、意外性があってバズるのではないかと思った
- ・今回のようなプロジェクトに参加し、実際に福島の地を訪れば、その魅力は確実に伝わる。
このプロジェクトの存在をさらに広めていきたい。
- ・場所じゃなくて、**人を押し出す**
- ・現地に生きる人の現状や生の声をYoutube等に発信
- ・国際企業向けに原子力発電と災害を学ぶ研修を実施する。
- ・今回のような**イベントの定期開催や範囲拡大**。

● 参考：参加者アンケート結果

＜参加者アンケート＞

Q：“ふるさと愛”プロジェクトでやってみたいことがあれば教えてください。

＜意見抜粋＞

- ・もっと広範な範囲に行きたい。2日目のような活動を増やしてほしい
- ・ぜひ実行委員としてまた参加したい。他県のふるさと愛プロジェクトをぜひ実施してほしい
- ・地元の農家さんで作業を手伝うとか図図倉庫で絵を作るなど。
- ・3年近く続いてきたので、参加したことある人たちでお久しぶり会 & フィールドワークさらに福島！ふるさと！に対する考えを深められる。
- ・職業体験をしてみたいと思いました。過ごすことでどのような年齢の人たちが福島に住み、どのような内容の仕事から復興に繋がっているか学ぶことができると思ったから。
- ・定期的なメンバー交流が欲しいと感じた。
- ・実際に避難した経路を歩く。（請戸小→大平山）
- ・他地域でのプロジェクトの参加。今後委員としては参加できないかもしれないが、またメンバーのみんなと会いたいし、東北についてもっと知りたい。
- ・今回は、地域ごとに多様な人、場所を訪れたが、風評被害を受けた食べ物、復興に携わりたくて移住した人、のように特定の分野に焦点を絞って魅力を発信する形にするのも良いと考える。
- ・アイスブレイクとして、みんなの“ふるさと”について知る時間をつくる何かを成し遂げている地域の人ではない人との関わり？
- ・観光客を誘致するような、沿岸地域の観光巡りのポスターやパンフレット、計画等をつくっていきたい。
- ・自分達が学んだことを他の人（別の団体や地域の人）に話す（還元する）時間があっても良いかなと思いました！

● 招待状作成ワークショップの実施報告

(1) 全体概要：福島県「招待状作成ワークショップ」

TOHOKU MOMENT 招待状作成ワークショップ	
企画趣旨	東北3県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北3県に人を引き付ける全世界に向けた招待状の制作を行う 福島県においては、運営委員会のこれまでの経験を活かした内容とするため「“ふるさと愛”プロジェクト 福島の過去と未来に出会う運営委員会」で作成を行う。
開催日程	第1回 2024年10月25日（金）第3回運営委員会にて実施 第2回 2024年11月29日（金）第4回運営委員会にて実施 第3回 2024年12月20日（金）第5回運営委員会にて実施
開催場所	オンライン「“ふるさと愛”プロジェクト 福島の過去と未来に出会う運営委員会」
実施内容	運営委員会内で招待状作成ミーティングを開催し、10箇所/10ページ構成の招待状を考案する。
参加者	運営委員会 学生7名（+アドバイザー2名）
実施内容	<ul style="list-style-type: none">・ 1回目：掲載内容の検討・写真イメージ設定（ページ構成案・使用写真案・メッセージを課題として提出）・ 2回目：ページ構成内容・表紙（ロゴ）設定・ページネーション構成・サブタイトル決定（リード文を課題として提出）・ 3回目：ページ構成・表紙決定・最終修正内容の確認（一言コメントを課題として提出）

招待状データは別添資料をご参照下さい

TOHOKU MOMENT

東北3県（岩手・福島・福島）の招待状ワークショップで作成した各ページをパネル化。エリア毎に展示を行い、「特に魅力を感じた、行ってみたくなった」パネルを選んでもらい、インバウンドを含めた施設利用者にお披露目するイベントを開催。

- **開催会場**：渋谷スクランブルスクエア 7F（Lx7）
東京都渋谷区渋谷二丁目24番12号（渋谷駅直結）
- **開催日程**：2025年2月22日（土）～23日（日）
- **開催時間**：10:30～18:30
- **開催内容**：
 - ・東北3県 招待状ページのパネル展示
 - ・来場者向けアンケート

<展示内容>

- ・大型パネルに、県ごとのポスターパネルを掲出。
- ※招待状の1ページをA2サイズパネルで展示。
- ・それぞれにナンバリングを実施し、来場者に「特に魅力を感じた、行ってみたくなった」パネルを選ぶアンケートを実施。
 - ・アンケート回答者は、東北3県の銘菓が当たる抽選会に参加。



- 抽選会賞品 <当たり>
 - ・東北3県の銘菓（お一つを差し上げる）
 - 宮城：玉澤総本店 ミニさぶれセット 6個入
 - 福島：柏屋 薄皮饅頭 5個入
 - 岩手：巖手屋 チョコ南部 8個入
- 抽選会参加賞 <はずれ>
 - ・うまい棒

TOHOKU MOMENT 2025年2月22日 (土)



TOHOKU MOMENT 2025年2月23日 (日)



<参加者アンケート>

■ アンケート回収数

2月22日（土）

アンケート回収数		スペース周辺歩行者カウント	
10:30-11:30	30	11:00-12:00	240
11:30-12:30	24	12:00-13:00	252
12:30-13:30	47	13:00-14:00	312
13:30-14:30	83	14:00-15:00	324
14:30-15:30	108	15:00-16:00	294
15:30-16:30	86	16:00-17:00	306
16:30-17:30	100	17:00-18:00	270
17:30-18:30	97	18:00-18:30	135
回収計	575	カウント計	2133

■ 性別・年代・居住地

	項目	回答数
性別	男性 (M)	213
	女性 (F)	350
	回答しない	12
年齢	11歳未満	18
	12-19歳	21
	20-29歳	221
	30-39歳	108
	40-49歳	48
	50-59歳	67
	60-69歳	16
	70歳以上	6
	回答しない	70

	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数
お住いの都道府県	東京都	265	沖縄	4	高知	1	アイルランド	1
	神奈川県	92	群馬	4	岡山	1	カナダ	1
	埼玉県	61	山梨	3	北海道	1	ベトナム	1
	千葉県	24	広島	3	富山	1	コロンビア	1
	愛知県	13	福島	3	山口	1	タイ	1
	大阪	8	兵庫	3	中国	10	フランス	1
	宮城	8	長野	2	アメリカ	7	アルゼンチン	1
	茨城	8	青森	2	韓国	5		
	福井	6	三重	2	台湾	4		
	静岡	6	京都	2	香港	4		
外国籍の方は国籍	栃木	4	福岡	2	パキスタン	2		
	新潟	4	徳島	1	イギリス	1		

2月23日（日）

アンケート回収数		スペース周辺歩行者カウント	
10:30-11:30	28	11:00-12:00	102
11:30-12:30	46	12:00-13:00	240
12:30-13:30	72	13:00-14:00	294
13:30-14:30	106	14:00-15:00	306
14:30-15:30	121	15:00-16:00	312
15:30-16:30	89	16:00-17:00	288
16:30-17:30	117	17:00-18:00	294
17:30-18:30	36	18:00-18:30	147
回収計	615	カウント計	1983

	項目	回答数
性別	男性 (M)	213
	女性 (F)	386
	回答しない	16
年齢	11歳未満	33
	12-19歳	19
	20-29歳	214
	30-39歳	122
	40-49歳	68
	50-59歳	53
	60-69歳	22
	70歳以上	6
	回答しない	78

	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数	項目	回答数
お住いの都道府県	東京都	298	広島	5	福岡	1	マレーシア	2
	神奈川県	83	山梨	4	富山	1	ニュージーランド	2
	埼玉県	64	北海道	4	秋田	1	インド	1
	千葉県	26	静岡	3	滋賀	1	メキシコ	1
	茨城	13	山形	3	韓国	8	ウクライナ	1
	栃木	12	兵庫	3	台湾	5		
	宮城	11	長野	2	アメリカ	3		
	愛知	10	京都	2	イギリス	3		
	群馬	8	岐阜	2	フランス	2		
	大阪	7	岩手	2	シンガポール	2		
外国籍の方は国籍	新潟	7	三重	1	中国	2		
	福島	6	青森	1	香港	2		

● 招待状 首都圏展示イベント集計

＜参加者アンケート＞

Q：“特に行きたくなった・魅力を感じた”パネルを各県3枚選んで下さい。

＜岩手県で回答が多かった3作品＞



＜福島県で回答の多かった3作品＞



＜宮城県で回答の多かった3作品＞



● 2. 過年度実施状況：全体像

- 福島県の近年の取組では、**若者や学生に着目し、県内で活躍している方や県内企業等との交流**を内包した企画を実施。
- 令和6年度の運営委員会・実践の場では、「**J-VILLAGE**」を舞台に県内外の若者たちが「**持続可能な地域づくり**」を考える「**話し合いの場**」を設け、**交流したフィールドへ訪問、ポスターセッション**を行った。

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
テーマ	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）	東日本大震災から10年目にあたって	学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う	未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり	県内外の学生に参画してもらう地域の魅力発信づくり	福島の過去と未来に向けて魅力を発見し、ふるさと愛を考える活動
実践の場	<p>「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」（福島市）</p> <p>福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ</p>	<p>「ふくしまプラクティス2020 ―実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦―」（双葉郡楢葉町）</p> <p>挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的としたイベント</p>	<p>『『大学生発 福島キャリア新発見』読む会』（オンライン）</p> <p>地域の中で魅力のある企業の若手社員を対象とした取材記事「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊を目指して活動。次年度以降の福島県の企業の魅力を発信する活動の拡大と、取材を行った学生の皆様の成長を目的に、実践の場をオンラインで開催</p>	<p>「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」</p> <p>県内外の大学生、若手の社会人に参加いただき、福島県浜通りの視察、地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々とのディスカッション、グループワークを通じて、次年度の「話し合いの場」の具体的な議論のテーマなどのプログラム案を検討。</p>	<p>「ふるさと愛プロジェクトin J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人～72時間スケッチ旅行～への参加</p> <p>県内外から25名の学生が集まり、「是非会ってみたい」と考える“ふくしま”な人との交流や、現地でのフィールドワーク等を行った。</p>	<p>「ふるさと愛プロジェクトin J-VILLAGE 福島」の過去と未来に出会う～への参加</p> <p>県内外から学生が集まり、地元の人々との交流やフィールドワークを通じて福島の魅力を発見し、ふるさと愛について深く考えてもらうと活動を行った。</p>

● 2. 意見交換（論点1 今年度の振り返り）

論点1

今年度についても、「**福島**の過去と未来に**会**う」ことを取組テーマとし、以下のような視点をもって企画を検討した。これまでの実施報告も踏まえ、**今年度取り組んだ内容についての良かった点／反省点・改善点等**について、ご意見いただきたい。

これまでの取組等から 見えてきた課題

- ・避難指示解除からまだまもなく、復興途上であること
- ・震災から14年間経過する中での、内陸－沿岸間の関係の希薄化（心理的距離）
- ・若者や女性の県外流出・県内移動（沿岸部→内陸部）後継者不足
- ・震災から14年間経過する中での、特に若年層における震災の記憶の風化
- ・地域プレイヤー間の連携不足

機会

- ・避難指示解除による人流、物流の回復・帰還促進推進
- ・新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴うインバウンド含む観光需要の復調・増大

課題解決・機会を活かすために 考えられる視点・目的

- ① **「福島の魅力を発見し、ふるさと愛を考える」**ことを取組テーマとする
- ② **内陸や興味のある方に沿岸部へ実際に訪れてもらう**ような企画とする
- ③ **若者や女性**を巻き込んだ企画とする
- ④ **地域振興に関するプレイヤー間の連携の創出**につながるような一過性ではない企画とする（副代表団体間、企業間での繋がりを重視）
- ⑤ 国内・海外から**内陸部に訪れた方にも沿岸部をPR**できるような**発展性・継続性のあるもの**とする

● 2. 意見交換（論点2 次年度の取組内容）

論点2

次年度は、官民連携推進協議会実践の場は見直しの年。過年度実践の場をさらにバージョンアップする取組として、どのように進めていくべきかを議論したい。

○ 議論のポイント

- ✓ 事務局としては、本年度まで「福島 of 過去と未来に向けて魅力を発見し、ふるさと愛を考える」をテーマに、福島県沿岸部を中心に魅力発信や事業者連携の創出につながる取組を一貫して行ってきた。避難指示解除から年数を経過せず復興途上であることも踏まえ、過去の成果を検証しつつ、取組を継続する。
- ✓ 一方で、地域課題の解決に向けた取組として行っている試行（＝実践の場）の意義や成果等については、効果検証や取り組み自体の情報発信の仕方等に工夫の余地があると考えている。
- 令和7年度は、第2期復興・創生期間の最終年度であり、令和8年度以降の取り組みに向け、復興庁としては以下の観点も踏まえつつ各種の事業を実施することとしたい。

◎ 能登半島その他の被災地域からの復興の際に参考となる取組の整理

- ✓ 今年度の取組では、これまでに“ふるさと愛”プロジェクトに参加してきた全国の学生を中心として運営委員会を発足させ、福島大学藤室先生、ふくしま連複天野先生を中心にご協力いただき、福島県をまだ体験したことのない若者に対して、沿岸地域地元の人々との交流やフィールドワークを通じて、福島 of 魅力を発見し、「ふるさと愛」について深く考えてもらうことを目的としてきました。

来年度は、過去からの取組の精神を受け継ぎつつ、取組の形式は前例踏襲に捕らわれることなく、これまで以上に全国各地で参考にしてもらえる、参照してもらえることを目指します。例えば、能登半島や今後の災害復興において参考となる官民連携の情報発信のノウハウや今後の副代表団体の方々の関わり方等に着目して整理等を行いたいと考えております。

◎ 令和7年度以降の実施体制

- ✓ 東日本大震災の被災地の現状等を各方面にご理解いただくためには、**本協議会の各種の取組を、今後の災害復興の際に参考となる官民連携による取組の先駆事例として、全国に向け情報提供等をいくことも必要**と考えています。

こうした実情も踏まえ、令和7年度以降の取組や実施体制等に関するご意見をいただければと思います。